

圧力式栗釜各部の説明

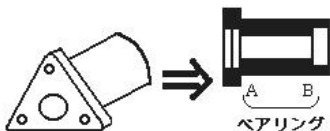
- ベアリングの交換について
- ベアリングの交換方法
- 新型釜について
- 圧力計について
- 押しボルトについて
- 圧力計の掃除について
- 安全弁について

ベアリングの交換について

コンロの火によりベアリングの油分がなくなり、ベアリングが回らなくなります。
つぎのような場合には、なるべく早くベアリングを交換します。

- ①回転が重い。(途中で止まることもあります。)
- ②軸受より異音が出る。
- ③自動式の場合は、バッテリーがすぐなくなります。

軸受にベアリングが2個入っています。手前側のAの方を交換します。



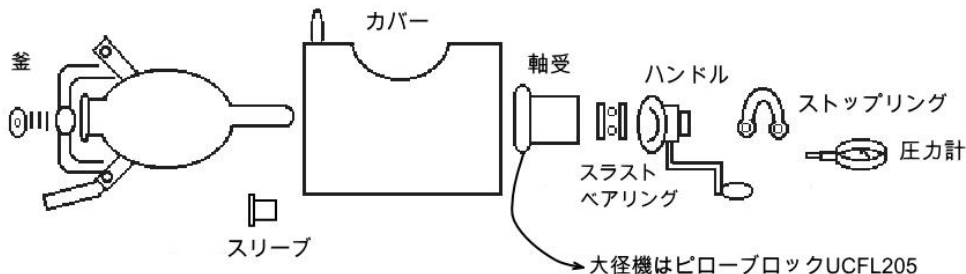
ベアリングの交換は半年に1度位です。
※ベアリングの購入先は機械工具店です。
※ベアリング番号→6205ZZ (ステンレス製タイプ)
(当店にて販売しています。ご注文下さい。)

※ベアリングは完全に回らなくなる前に交換してください。

※ベアリングが半年以下で悪くなるのは、ハンドルのネジが緩み、釜が前にせり出てベアリングに火が入るためです。ハンドルのネジをよく締め、緩まないようにして下さい。

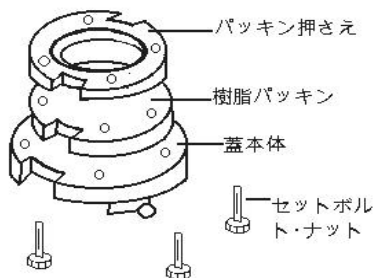
ベアリングの交換方法

- ①圧力計・ハンドル・ストップリングを取り外す。
- ②ハンドルの傷が軸についているので、傷をヤスリなどで完全に取ります。
- ③釜をぬく。(ぬけない場合は、軸の傷がまだ残っています。)
- ④軸受は取り外す。(3本のボルトをスパナで外す。)
- ⑤軸受に締め棒を差し込み、手前のベアリングを外し、新品と交換する。
- ⑥軸受を取り付ける。(カバーの穴の中心に、ベアリングの中心を合わせる様にして下さい。)
- ⑦釜を入れ、ハンドル・圧力計を取り付ける。



パッキンについて

樹脂製パッキンを使用しています。釜口には安全弁を設け、異常圧を防ぐようにしています。



- 樹脂パッキンは、両面使用できます。
- 片面で200回前後の使用が目安です。
- パッキン面にキズができると、圧力が漏れる原因となりますので、蓋を閉めた状態で本機を移動するなどして、パッキン面にキズがつかないようにして下さい。
- 小径型は直径130mm、新型(中径型)は140mm、大径型は直径220mmをご注文ください。**※鉄の蓋の径で確認下さい。**

《蓋の閉め方》

最初 3回くらいの加工の際は、強めに閉めます。パッキンが温まると、やわらかく弾性がでてきますので、少し弱めに閉めても圧が漏れなくなります。

※安全弁のメンテは、別項を参考にして下さい。 ※予備のパッキンは、当店に注文されてください。

👉 圧力計について

※圧力計は、耐震用をご使用ください。

《圧力計の故障》

①加工後 針が0に戻らない。

- 指定圧力をオーバーして加工した場合。
- 左手の支えが不十分。
- 圧力計の裏のネジの緩み。

②小さな針のくるい(0.1~0.2MPa)

- 0.1のところ針が止まっている→指定圧力+(プラス)0.1MPa で打ちます。
 - -0.1のところ針が止まっている→指定圧力-(マイナス)0.1MPa で打ちます。
- このように計算して打ちます。

③計算しにくいほど狂っている時。

1. 圧力計のガラスを外し、ドライバー2本を使って針をはさみ、上に持ち上げて針を抜きます。

この時、芯棒を曲げないように注意して下さい。

2. 0に針を合わせて差し込み、抜けないように軽く頭を叩いておきます。

3. 圧力計の裏のネジ2本がゆるんでいないか確かめます。

※ 注意

針を取り付けたあと、指先で針をはじき、0に戻れば使用可能です。0に戻らなければ、内部の故障です。

4. 修理した圧力計にシールテープ(ホームセンターにあります。)を2~3重に巻き、ハンドルに付けます。

※おしぼり程度に絞ったタオルを釜に入れ、火をつけて回し、圧力計が上がるかテストしてから押しボルトを緩めて取り出し、そのあとに使用すれば材料のムダがありません。

👉 押しボルトについて

押しボルトのネジ部や先端に時々グリースを注油して下さい。

☞ 圧力計を取り外して掃除する

1週間に1度くらい、圧力計を外し本体の小さな穴を針金などで掃除します。
シールテープのカスや小さなお米が詰まっています。掃除が終わったら、圧力計にシールテープを2~3重に巻き、ハンドルに取り付けます。
※圧力計を外し、釜口から覗いて光が見えるかどうか確認してください。

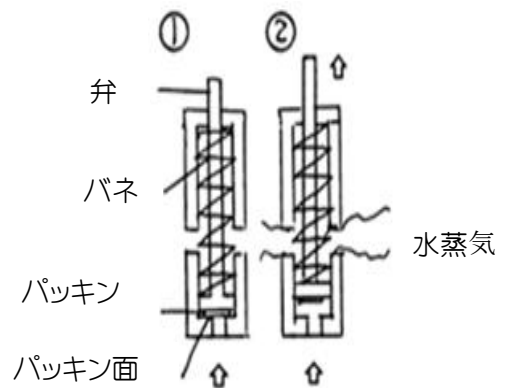
☞ 安全弁の点検

弁の代わりに鋼球の入っている仕様は古いタイプです。交換して下さい。

※ 注意 安全弁が作動した時は、必ず火を止めて圧の上昇を防いで下さい。

《安全弁の原理》

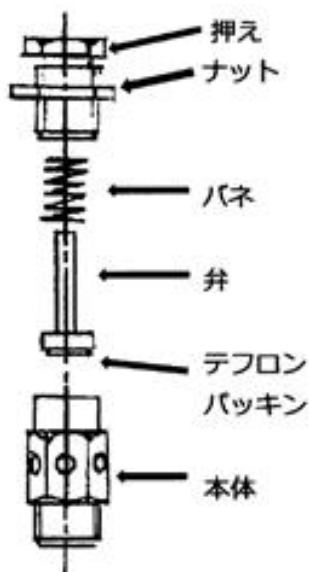
弁をバネで押さえることによって釜の中の圧力を止めていますが、圧力が上昇し、バネの押さえる力より大きくなると図②のように弁が上にあがり、隙間から圧(水蒸気)が逃げ、圧力の上昇を止めます。



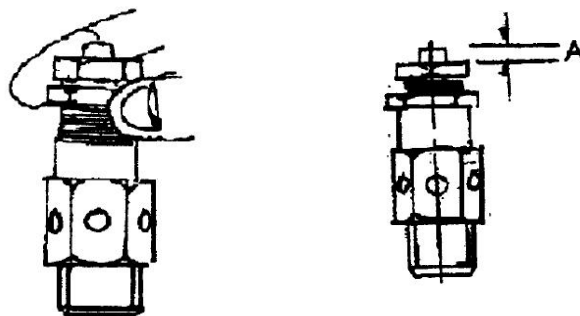
《安全弁の故障の原因》

- ①バネが伸びて押さえる力が弱くなった時
- ②バネの押さえの調整が狂った時(調整方法参照)
- ③一度圧力がもれ、パッキン面に異物が入り、圧力がもれやすくなった時

《安全弁の調整方法》



釜から取り外し左図の様に一度分解して下さい。弁の先端のテフロンパッキン部の汚れを落とし、(キズのある場合は交換します。) ナットを押えの上にした状態で再組立てします。Aの寸法が8mmになる位置でナットを下げ固定します。濡れタオルで圧力テストをして作動確認して下さい。



注▶ 安全弁は栗釜用に材質など特別仕様になっています。